

都市再生整備計画

ちちぶてつどう ぎょうだしえき しゅうへんちく だい き
秩父鉄道行田市駅周辺地区(第2期)

さいたま ぎょうだ
埼玉県 行田市

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	☐
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	☐
まちなかウォーカブル推進事業	☒

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	埼玉県	市町村名	行田市	地区名	秩父鉄道行田市周辺地区(第2期)	面積	79.5	ha
計画期間	令和7年度～令和11年度	交付期間	令和7年度～令和11年度					

目標
大目標：行田市の中心市街地の魅力を活かした居心地が良く歩きたくなるまちづくりの実現 小目標①:歩道と車道を再配分による歩道の拡張やキッチンカースペース、ベンチなどの設置による居心地が良く歩きたくなる空間の整備 小目標②:足袋蔵などの歴史的資源を活かした快適に交流・滞在できる空間の確保 小目標③:官民連携によるにぎわいのある歩行者空間の実現

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 本市は、人口約7万8千人の都市であり、埼玉県北部に位置している。国指定史跡である「埼玉古墳群」や、埼玉県指定旧跡である「忍城址」、かつて生産量日本一となった足袋産業を象徴する建築物である足袋蔵などの歴史的遺産が数多く残され、近年では映画「翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～」の公開により全国的な知名度が高まるなど、歴史・文化都市としてもその名を知られている。また、市域のほぼ全域が利根川と荒川の沖積平野となっており、忍川や星川をはじめとした河川が縦横に流れ、肥沃な土壌の穀倉地帯を形成しているとともに、武蔵水路や見沼代用水といった導水路の起点となるなど、首都圏の水供給における要衝として、また水と緑の豊かな田園都市として発展を遂げてきた。 市の中心部に位置する本地区は、中世・近世においては政治経済の中心として、現代においては中心市街地として位置付けられており、忍城址、足袋蔵、水城公園などの歴史と文化、水と緑の地域資源を内包し、市役所や埼玉県行田地方庁舎をはじめとした公共・公益施設が集中する、市の顔と呼ぶにふさわしい地区である。 平成26年3月には「行田らしいまちづくりとにぎわい創出基本計画」を策定し、地域資源の特徴や魅力を最大限に引き出し、まち全体の魅力をさらに高めていくとともに、まちづくりの主役である市民と行政などが一体となった取組みを行ってきた。また、平成25年度からは、「ふるさとづくり事業」により、行田ならではの街なみ景観の創出を図るため、市民や市民団体等が主体となって行う足袋蔵等の歴史的建築物の改修事業などを支援し、本市の持つ地域資源を有機的且つ有効的に整備・利活用するなど独自のまちづくりを進めた結果、実施箇所周辺においては徐々に整備効果が表れはじめ、行き交う人の数が増加するなど、一定の成果を挙げている。 さらに、忍城址にはキッチンカーの設置スペースや休憩のためのスペースを設置する予定となっており、居心地が良くにぎわいのあるまちづくりを実現するため、今後もさまざまな事業を実施する予定である。
課題 ・生活利便性の維持向上とにぎわいの創出が求められている。 ・空き家等や都市インフラの既存ストックの有効活用が不足している。
将来ビジョン(中長期) ①行田市基本構想(2024-2027)(令和6年度策定) 中心市街地に相応しい活気と魅力ある街なみを創出するため、行田らしい景観を活かした都市基盤整備を進めるとともに、市民、企業、NPOなどと連携したまちづくりに取り組む。また、市内に残る多くの地域資源を保全するための保全意識の向上を図る。 ②行田市都市計画マスタープラン(2013-2033)(平成24年度策定) 必要な都市機能を中心市街地などの都市拠点に集約し、だれもが歩いて暮らせる、安全で暮らしやすいまちづくりを進めるとともに、農村集落地での生活利便性を向上し、これらを結ぶ道路・公共交通ネットワークなどの更なる充実により、各地域が連携した都市づくりを目指す。なお、当該地区は歩いて楽しいまちづくりを進め、回遊性の向上を図る地区として位置付けられている。 ③行田市立地適正化計画(2024-2044)(令和5年度策定) 人口減少が進むことが予想され、少子高齢化も進展している状況を踏まえ、将来を見据えて、生活に必要な機能や居住を拠点に集約させ、拠点間を公共交通で結ぶ「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考えによる持続可能なまちづくりを進めていく。誘導施策として、バリアフリー化による人にやさしい交通環境を整備や、回遊性を高めることによるウォーカブルなまちづくりの推進を定めている。

一体型滞在快適性等向上事業及びまちなかウォーカブル推進事業の計画 ※一体型滞在快適性等向上事業の場合もしくはまちなかウォーカブル推進事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
滞在快適性等向上区域の考え方 秩父鉄道行田市駅を拠点とし、駅中心から南側の八幡通りや忍城址、水城公園を含む範囲に滞在快適性等向上区域を設定し、歩道と車道を再配分による歩道の拡張などによりゆとりある歩行者空間を確保するとともに、はちまんマルシェや行田花手水weekの開催などにより、官民一体となって居心地の良いまちなかを創出する。
滞在快適性等向上区域での取組 行田市駅前広場、市道第5.1-7号線、市道第6.2-8号線、市道第6.3-89号線他において、歩道と車道を再配分による歩道の拡張、カラー舗装、キッチンカースペース設置等を行うことにより、ゆとりがあり歩きやすい歩行者空間を創出する。 また、まちなかにまちなかハブとしてオープンスペース及びトイレを整備することで、歩行者等にくつろぎの場を提供する。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
歩行者・自転車通行量	人	市道第6.2-8号線の歩行者・自転車の通行量	ウォーカブルなまちづくりによる、歩行者と自転車の回遊性の向上	461人	R6年度	507人	R11年度
行田市駅周辺の交通利便性や回遊性に関する満足度	%	意識調査で、行田市駅周辺の交通利便性や回遊性に「満足している」「どちらかといえば満足している」と答えた人の割合	ウォーカブルなまちづくりによる、行田市駅周辺の回遊性の向上	5.90%	R4年度	24.00%	R11年度
空き家などの利活用件数	件	都市再生整備計画区域内にある足袋蔵などの歴史的建築物をはじめとした空き家・空き店舗の利活用件数(令和7～11年度ののべ件数)	足袋蔵などの歴史的資源を活かした快適に交流・滞在できる空間の確保	0件	R6年度	3件	R11年度

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【地域の観光資源を安全に回遊するためのウォークアブルなまちづくり】 ・行田市駅の駅前広場や歩道において、歩道と車道の再配分による歩道の拡張やキッチンカースペース、ベンチなどの設置により、居心地が良く歩きたくなる空間として整備する。		【基幹事業】(道路)行田市駅前広場再整備事業 【基幹事業】(道路)市道第5.1-7号線歩道整備事業 【基幹事業】(道路)市道第6.2-8号線歩道整備事業
【魅力ある滞留空間・交流拠点の創出】 ・歩く楽しさやオープンスペース及びトイレの設置といった幅広い世代に受け入れられる事業を展開し、歩きたくなる、訪れやすい環境を創出する。 ・行政主導のまちづくりから市民主体のまちづくりへの転換を図り、まちづくりに対する市民意識を醸成する。 ・本市特有の歴史的・文化的資源を活用し、質の高い街なみ景観の創出を図り、個性的なまちづくりを展開する。		【基幹事業】(高質空間形成施設)市道第6.3-89号線他道路整備事業 【基幹事業】(地域生活基盤施設)まちなかサイン整備事業 【基幹事業】(滞在環境整備事業)(仮称)まちなか休憩スペース整備事業 【提案事業】市道第6.3-185号線事業活用調査事業 【提案事業】まちづくりワークショップ事業 【関連事業】ふるさとづくり事業
その他		

様式(1)-④-4

(金額の単位は百万円)

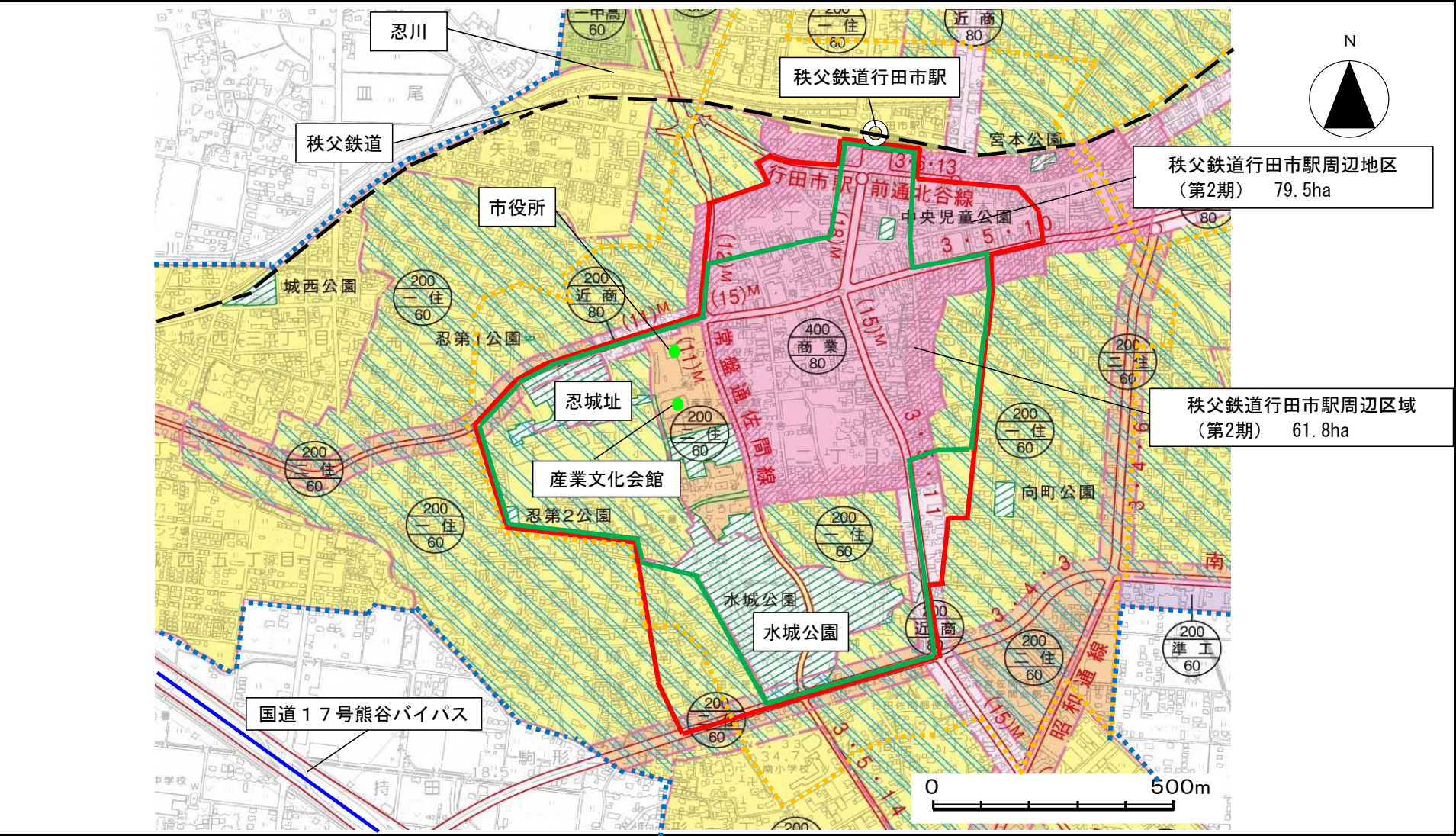
...A

...B

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれかに○)				事業期間		全体事業費
					直轄	補助	地方単独	民間単独	開始年度	終了年度	
					/	/	/	/			
					/	/	/	/			
合計					/	/	/	/			0

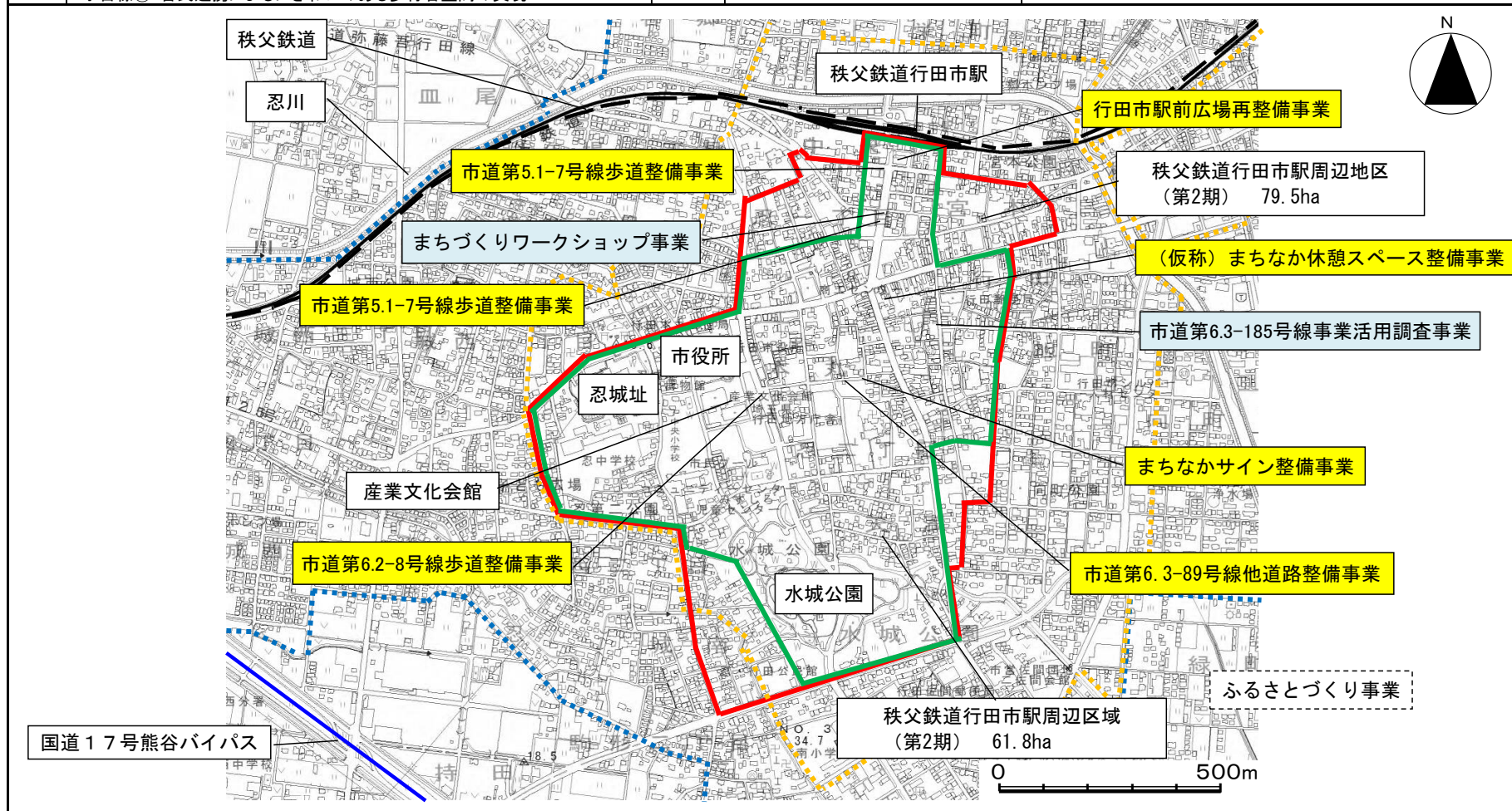
[illegible]

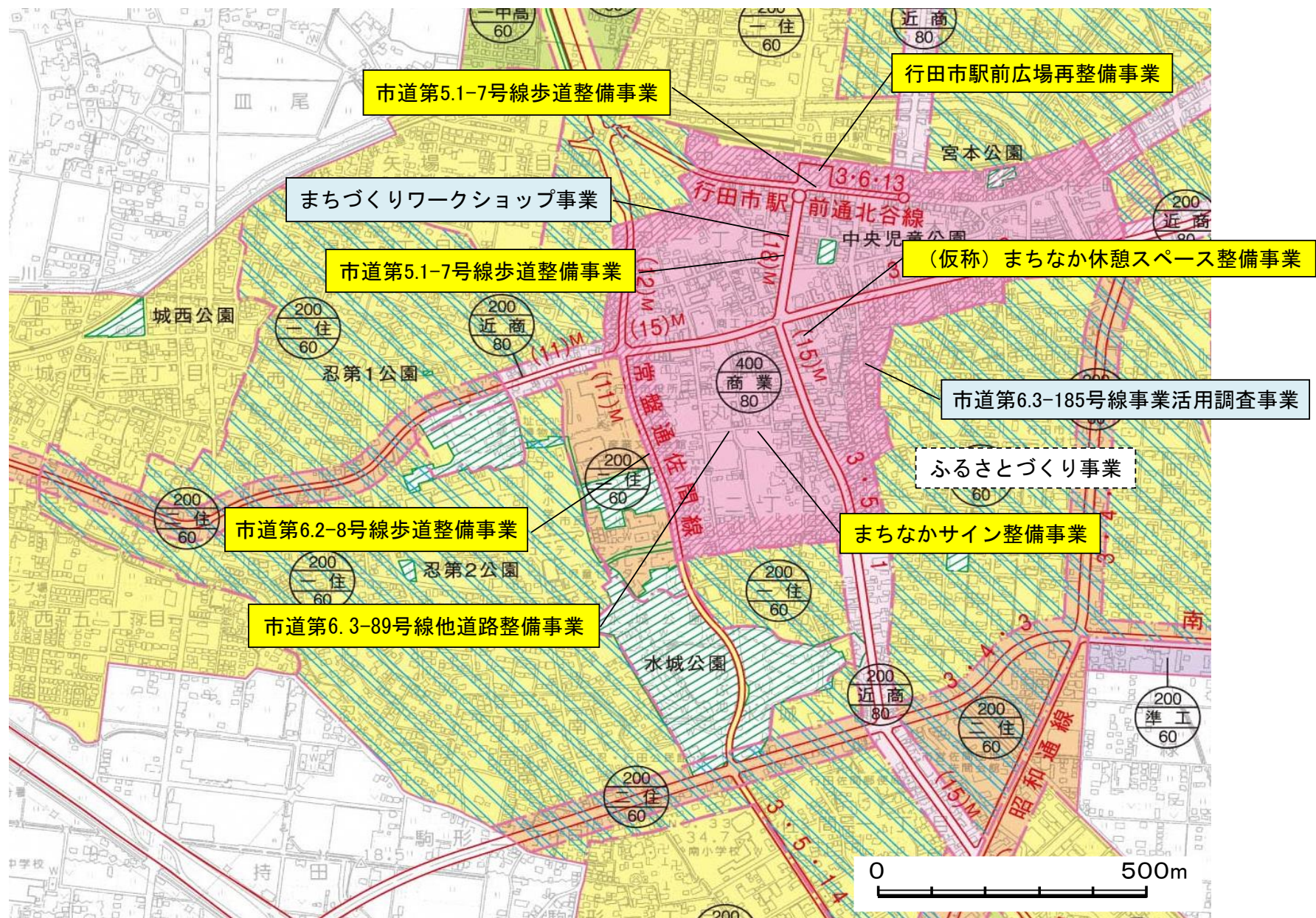
秩父鉄道行田市駅周辺地区(第2期)(埼玉県行田市)	面積	79.5(61.8) ha	区域	行田市中央の一部、宮本の一部、行田の一部、本丸の一部、旭町の一部、向町の一部、忍1丁目の一部、忍2丁目、佐間1丁目の一部、城南の一部、水城公園
---------------------------	----	---------------	----	---



秩父鉄道行田市駅周辺地区(第2期)(埼玉県行田市) 整備方針概要図(まちなかウォーカブル推進事業)

目標	大目標：行田市の中心市街地の魅力を活かした居心地が良く歩きたくなるまちづくりの実現	代表的な指標	歩行者・自転車通行量 (人)	461人	(R6年度)	→	507人	(R11年度)
	小目標①：歩道と車道を再配分による歩道の拡張やキッチンカースペース、ベンチなどの設置による居心地が良く歩きたくなる空間の整備		行田市駅周辺の交通利便性 (%)	0.059	(R4年度)	→	0.24	(R11年度)
	小目標②：足袋蔵などの歴史的資源を活かした快適に交流・滞在できる空間の確保		空き家などの利活用件数 (件)	0件	(R6年度)	→	3件	(R11年度)
	小目標③：官民連携によるにぎわいのある歩行者空間の実現		0	0	0	→	0	0
			0	0	0	→	0	0





方針概要図資料